

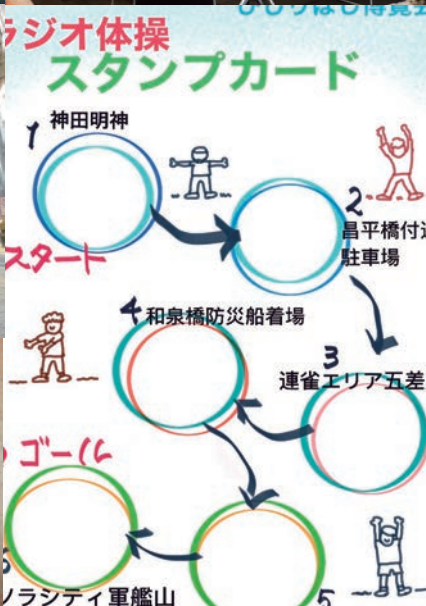


東京文化資源会議年報 2023 年度

東京文化資源
會議

Tokyo Cultural Heritage Alliance





東京文化遺産 2023
Tokyo Cultural Heritage Alliance



東京文化資源会議年報 2023 年度

▶ 目次

① 東京文化資源区構想 (半径3キロ圏地図 第4版)	6
② 活動マップ (第7版)	7
③ 活動中のプロジェクトチーム等一覧	8
④ 活動実績 (2014年6月～)	9
⑤ 2022年度プロジェクトチーム活動報告	12
⑤ -1. 地図ファブ	12
⑤ -2. 湯島神田上野社寺会堂研究会と崖東夜話	13
⑤ -3. 本郷のキオクの未来	15
⑤ -4. スポーツ文化資源	16
⑤ -5. リノベーションまちづくり制度研究会	18
⑤ -6. TokyoTramTown	19
⑤ -7. 広域秋葉原作戦会議	21
⑤ -8. 上野ナイトパークコンソーシアム	22
⑤ -9. やねせんあたり研究所	23
⑤ -10. 神田まちづくり懇談会	24
⑤ -11. 上野連携構想推進委員会	25
⑤ -12. ひじりばし博覧会 2022	26
⑥ 東京オリンピック文化プログラム推進に関わる4者協議会規約	28
⑦ 2022年度収支報告	29
⑦ -1. 2022年度収支報告 (一般会計・特別会計)	29
⑦ -2. 2022年度会計監査報告	31
⑧ 2023年度事業計画案及び収支計画案	32
⑨ 東京文化資源会議名簿等	
⑨ -1. 役員名簿	34
⑨ -2. 賛助会員一覧	35

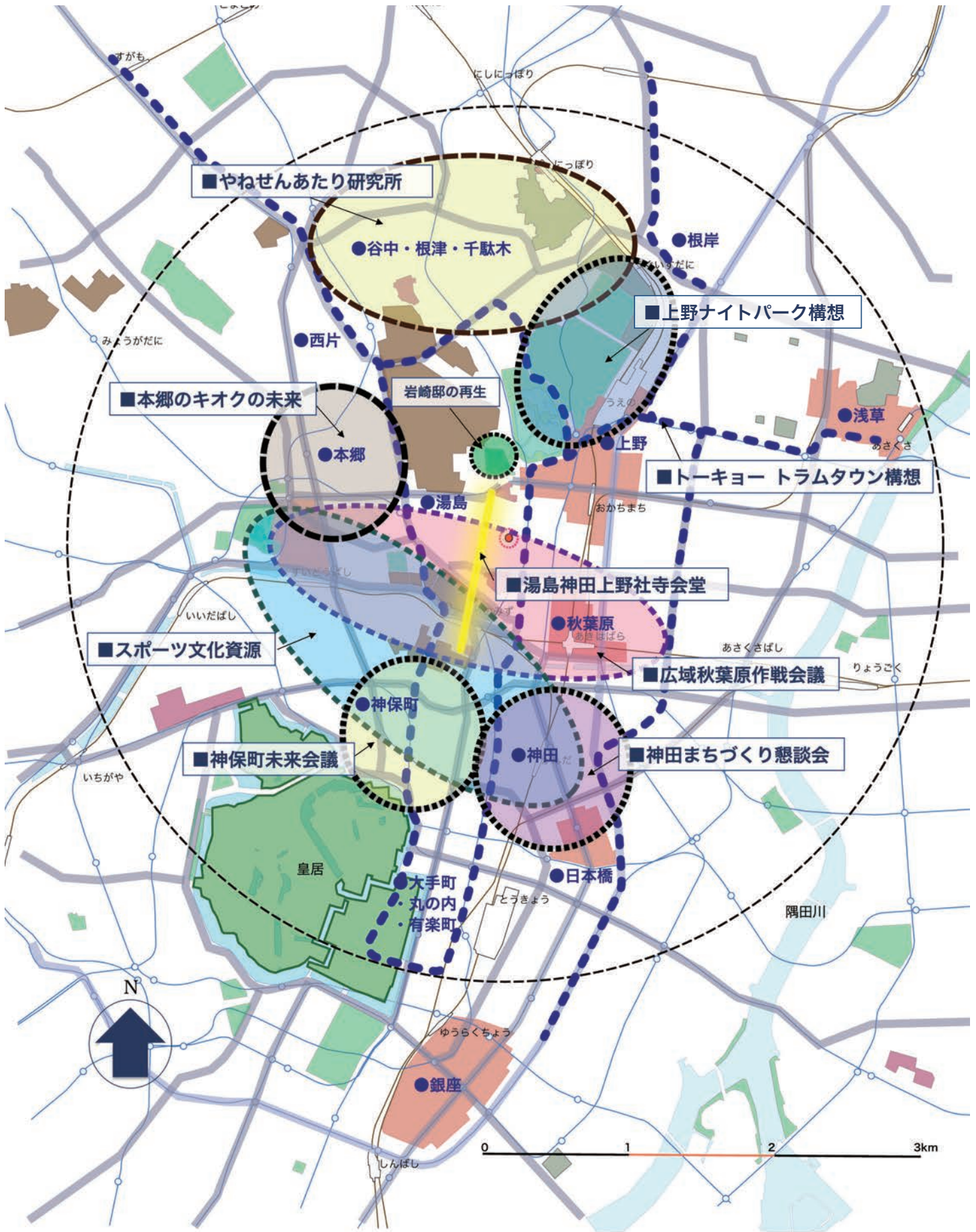
東京文化資源区構想 (ver.4)

2023年4月



東京文化資源会議活動マップ (ver.7)

2023年4月



活動中のプロジェクトチーム等一覧

2023年3月末現在

*PM：プロジェクトマネージャーの略称

<プロジェクトチーム>

1. 湯島神田上野社寺会堂研究会（吉見俊哉座長、金井康子 PM）
2. 本郷のキオクの未来（栗生はるか座長、三文字昌也・細見直史 PM）
3. スポーツ文化資源（新雅史座長、逢坂裕紀子 PM）
4. リノベーションまちづくり制度研究会（田村誠邦座長、小泉秀樹副座長、小野道生 PM）休止中
5. トーキョートラムタウン構想（中島伸座長、谷口晋平 PM）
6. 広域秋葉原作戦会議（庄司昌彦座長、菊地映輝・井上奈智 PM）

<委員会等>

- 上野ナイトパークコンソーシアム（UNPC）
- 神田まちづくり懇談会（小林正美座長）
- 出版委員会（沢部均委員長）
- やねせんあたり研究所（片桐由希子主宰）
- 上野連携構想推進委員会（吉見俊哉委員長）

<千代田・文京・台東3区との協議会>

- 東京文化資源区文化プログラム推進協議会
- 三区文化資源地図協議会

<関連協力団体>

- 非営利芸術活動団体コマンド N
- 神保町未来会議

東京文化資源会議 活動実績（2014年6月～）

2023年3月末現在

2014年

- ・ 第1回東京文化資源区構想策定調査委員会（6月6日）
- ・ 公開ラウンドテーブル no.1「東京文化資源区構想」（10月22日）

2015年

- ・ 東京文化資源会議設立総会（2月23日）、会議発足（4月1日）
- ・ 『東京文化資源区構想報告書』発行（5月）
- ・ 公開シンポジウム no.1「Tokyo 2020/2030：文化資源で東京が変わる」（5月21日）
- ・ 第1回役員会・賛助会員懇親会（6月18日）
- ・ 2015年度第1回総会（6月29日）
- ・ 都市計画家協会ワークショップ「東京文化資源からのコミュニティ・デザイン」（8月20・21日）：協カイベント
- ・ 団体会員向けプログラム説明・意見交換会（9月28日）
- ・ 全国まちづくり会議学生セッション（東京文化資源区）（10月4日）：関連企画
- ・ 会員向けエクスカージョン「CTNを周ってみる」（10月17日・24日）
- ・ 谷中まちづくり公開セミナー no.1（11月9日）～no.5（2016年2月14日）
- ・ 第1回東京ビエンナーレ企画委員会（11月25日）
- ・ 第1回文化資源連携ビジョン策定委員会（12月3日）
- ・ 「オズマガジン Meets 2015」：協カ企画（中村政人氏対談）（12月13日）

2016年

- ・ 「三区文化資源地図協議会」発足（1月1日）
- ・ 文化資源地図ファブ PT 第1回会合（1月21日）
- ・ 公開シンポジウム no.2「2030 東京ビジョン：3区長、大いに語る」（2月4日）：朝日新聞社共催
- ・ 国際連携チーム（ILT）発足（3月9日）
- ・ まちの作戦会議@谷中P 成果発表会（3月13日）
- ・ 公開ラウンドテーブル no.2「オリンピック文化プログラム構想戦略ラウンドテーブル」（3月24日）
- ・ 『オリンピック文化プログラム』『東京文化資源区の歩き方』同時発行（3月25日）
- ・ フォーラム no.1「プロジェクトスクール（まちづくり系）フォーラム」（4月22日）
- ・ 地域文化資源デジタルアーカイブ（谷根千編）プロジェクトチーム発足（5月25日）
- ・ 東京文化資源区文化プログラム推進協議会発足（6月1日）
- ・ 湯島神田社寺会堂プロジェクト第1回検討会（6月8日）
- ・ 『第2回公開シンポジウム報告書』発行（6月14日）
- ・ 2016年度第1回総会（6月23日）
- ・ 第1回神田まちづくり懇談会（6月27日）
- ・ 第1回文化プログラム推進協議会（7月6日）
- ・ フォーラム no.2「上野スクエア計画第1回フォーラム」（8月23日）
- ・ トーキョートラムタウン構想第1回勉強会（10月6日）
- ・ 地域文化資源デジタルアーカイブ（谷根千編）試作版公開（10月7日）
- ・ 関連企画：トークセッション「UP TOKYO エリアの社寺会堂」（10月19日）
- ・ フォーラム no.3「上野スクエア計画第2回フォーラム」（10月21日）
- ・ 公開シンポジウム no.3「上野スクエア構想：上野・湯島の魅力を世界に！」（12月5日）
- ・ スポーツ文化資源プロジェクト企画拡大会議（12月12日）

2017年

- ・ 『湯島・神田・秋葉原めぐり』3か国版で発行（4月1日）
- ・ 公開シンポジウム no.4「UP TOKYO の魅力：世界へ、世界から」（4月11日）
- ・ 神田祭ラボお披露目会 4/22、神田祭ライブ 5/13（3区文化資源地図ファブ PT）
- ・ ナショナルハウス構想プロジェクトチーム発足（5月30日）
- ・ 第1回上野スクエア構想検討委員会開催（5月31日）
- ・ 第1回広報委員会（5月31日）
- ・ 2017年度第1回総会（6月30日）
- ・ 「上野ナイトパーク構想」官房長官宛て提案（7月4日）

- ・ 特別賛助会員懇親会（7月7日）
- ・ 第1回リノベまちづくり制度研究会開催（8月2日）
- ・ 公開ラウンドテーブル no.3「トーキョートラムタウン（TTT）構想」（9月7日）
- ・ フォーラム no.4「日本の新しい精神文化創造に向けて ― 湯島神田社教会堂検討会」（10月17日）
- ・ 公開シンポジウム no.5「東京・水の記憶と湯島社教会堂プロジェクト」（11月14日）
- ・ 公開シンポジウム no.6「地域の記憶と記録を今に活かす ― 地域文化資源デジタルアーカイブの役割 ―」（11月24日）

2018年

- ・ 朝日信用金庫・民間都市開発機構による「谷根千街づくりファンド」創設（3月26日）
- ・ 帝都物語第1回トークセッション（地図ファブPT）（6月11日）
- ・ 2018年度第1回総会（7月2日）
- ・ 第1回社教会堂塾開催（7月4日）
- ・ 2018年度第1回全国文化資源連携ビジョン策定委員会開催（7月10日）
- ・ 公開シンポジウム no.7「グレーターアキバ：情報・知識の交差点」（9月6日）
- ・ 関連企画：東京ビエンナーレ構想展トーク企画「東京文化資源区の観点から『東京ビエンナーレ』を考える」（9月29日）
- ・ 公開シンポジウム no.8「発見！『上野スクエア構想』開かれた文化資源」（10月1日）
- ・ 第1回上野ナイトパーク構想会議開催（10月3日）
- ・ 帝都物語第2回トークセッション（地図ファブPT）（10月18日）
- ・ フォーラム no.5「開かれた文化資源区『上野スクエア』を実践する」（10月31日）
- ・ 東京文化資源会議交流会@旧山口萬吉邸（11月7日）
- ・ 公開シンポジウム no.9「神田明神ホール完成披露 地図からみる帝都物語と江戸・東京@神田明神 ― 重層化する都市の文化資源を愉しませる ―」（12月14日）
- ・ 広域秋葉原作戦会議アイディアソン vol.1「ライブエンターテイメント特区を考える」（12月15日）

2019年

- ・ フォーラム no.6「まちづくりプロジェクトスクールの可能性 ―『文化資源を担う人』を育てるまちなかのしくみ ―」（1月19日）
- ・ 公開ラウンドテーブル no.4「トーキョートラムタウン構想 ― スローモビリティが変える東京の都市生活」（2月18日）
- ・ 広域秋葉原作戦会議アイディアソン vol.2「アキバ拡張作戦」（2月26日）
- ・ 第1回上野ナイトパーク構想企画検討会開催（3月7日）
- ・ 公開シンポジウム no.10「上野ナイトパークが日本を変える」（4月3日）
- ・ 第1回「池の端仲町かいわい 空きスペース活用ミーティング」（4月19日）
- ・ 広報イベント「ソラシティでスポーツを遊ぼう！」開催（5月5日）
- ・ 第1回総合戦略チーム会議（5月9日）
- ・ 新事務所開き（6月12日）
- ・ トークショー「街を更新する小さなパブリックスペース ～神社やお寺や聖堂が身近にある暮らしを考える」（社教会堂研究会）（6月21日）
- ・ 広域秋葉原作戦会議アイディアソン vol.3「千代田区都市計画マスタープランをハックする」（6月28日）
- ・ 2019年度第1回総会・上野関連プロジェクト報告会（7月11日）
- ・ アーツ&スナック運動（9月20日、21日）
- ・ 公開シンポジウム no.11「時層する東京と社教会堂」（11月6日）
- ・ 第1回東京トラムタウン構想委員会開催（12月2日）
- ・ 広域秋葉原作戦会議アイディアソン vol.4「スローモビリティで楽しいアキバ」（TTT 構想 PT との共催）（12月7日）

2020年

- ・ デジタルアーカイブ・ワークショップ（日比谷図書文化館）（2月1日）
- ・ やねせんあたり研究所第1回研究・活動発表会（2月24日）
- ・ 緊急特番「# Save your AKIBA」（5月20日）
- ・ オンライン発表&討論会「大学生と考える上野の都市デザイン2題」（6月11日）
- ・ ひじりばし博覧会2020（ソラシティ）（7月24日）
- ・ 広域秋葉原放送局第1回放送（8月7日）
- ・ ガイトウスタンド開設（10月14日～11月28日）
- ・ 崖東夜話第一夜（神田明神ほか6施設）（10月27日）
- ・ 第1回上野連携構想推進委員会開催（12月7日）

2021年

- ・ 上野ナイトミュージアムツアー（2月12日・19日）、ポッドキャストコンテンツ「10代ミュージアムによるラジオ」制作・配信（2月22日～）：文化庁による博物館・文化財等におけるナイトタイム充実支援事業の委託事業として実施
- ・ 崖覧会その壺（3月24日）
- ・ 「しのばずで遊ぼう！池と町」ウォーク&プレイ上映会（3月28日）

- ・ 2021 年度第 1 回総会オンライン開催（5 月 27 日）
- ・ 東京都庁による大学研究者事業提案制度に応募（TTT 構想 PT）（6 月 18 日）
- ・ 広域秋葉原放送局 in しのみばず中継第 1 回放送（4 月 5 日）～第 6 回（6 月 21 日）
- ・ 総会資料を 2021 年度発行分から遡って『東京文化資源会議年報』と改題（5 月 5 日）、既刊とまとめて納本
- ・ 崖東夜話第二夜（10 月 22 日）
- ・ セミナー＆ワークショップ「パラリンピックのレガシーを考える：ポストコロナにおけるスポーツとは？」（スポーツ文化資源 PT）（11 月 20 日）
- ・ 公開シンポジウム no.12「ポスト五輪・ポストコロナの東京ビジョンー 旨味都市の文化創生」（11 月 26 日）
- ・ インターネットによる上野公園利用調査（上野ナイトパークコンソーシアム）（11 月 30 日～12 月 3 日）

2022 年

- ・ 第 1 回 UNPC フォーラム（3 月 17 日）
- ・ 社寺会堂塾フォーラム（4 月 14 日）
- ・ ひじりばし博覧会 2022（5 月 5 日）
- ・ 崖東夜話第三夜（11 月 9 日）

2023 年

- ・ フォーラム no.7「東京の持続可能性 -文化資源による〈創造〉のエコシステム-」（3 月 20 日）

<出版物>

書籍等

- ・ 『オリンピック文化プログラム』 勉誠出版、2016 年
- ・ 『東京文化資源区の歩き方』 勉誠出版、2016 年
- ・ 同人誌『広域秋葉原作戦 2019 β』 2019 年
- ・ 『帝都物語地図カタログ』 2019 年
- ・ 『社寺会堂から探る 江戸東京の精神文化』 2020 年

報告書

- ・ 『東京文化資源区構想』 2015 年
- ・ 『2030 東京ビジョン 3 区長、大いに語る』 2016 年
- ・ 『湯島社寺会堂プロジェクト報告書』 2017 年
- ・ 『上野スクエア第二次構想報告書』 2018 年
- ・ 『上野ナイトパーク構想報告』 2019 年
- ・ 『リノベーションまちづくり制度研究会 2018 年度報告書：東京歴史文化地区の創出にむけて』 2019 年
- ・ 『TOKYO TRAM TOWN 構想計画』 2020 年
- ・ 『旨味都市の文化創生 — 2030 列島ビジョン』 2020 年
- ・ 『文化資源からみた秋葉原エリアの地域活性化のための調査研究および提言に関する業務報告書』 2021 年

パンフレット

- ・ 「東京文化資源会議：2030Tokyo を変える！」 2016 年～（随時改訂）
- ・ 「上野スクエア構想シンポジウム」 2016 年
- ・ 「湯島・神田・秋葉原めぐり（日英中 3 か国版）」 2017 年
- ・ 「シンポジウム：地域の記憶と記録を今に活かす」 2017 年
- ・ 「江戸・東京 知の交差点 グレーターアキバ（日英中 3 か国版）」 2018 年
- ・ 「江戸・東京 水を愉しむ文化都市（日英中 3 か国版）」 2018 年
- ・ 「近代スポーツ発祥の地をたどる（日英中 3 か国版）」 2018 年
- ・ 「つくる・売る・遊ぶ・街 上野ダウタウン（日英中 3 か国版）」 2018 年
- ・ 「上野アップタウン 観る・学ぶ・想う・街 お寺からアートへ（日英中 3 か国版）」 2018 年
- ・ 『アーツ&スナック運動』 第 1 号、2020 年
- ・ 「TOKYO TRAM TOWN 10 の Q&A」 2020 年

定期刊行物

- ・ 『TCha：東京文化資源会議ニューズレター』（季刊、2017 年 9 月～）
- ・ 『東京文化資源会議総会資料（年報）』（年刊、2016 年～）

活動概要

湯島神田上野社寺会堂研究会では、六つの学術・宗教施設（六施設）※が集まり、メンバー相互の交流を図りながら、コロナ禍の近況や課題を共有し意見交換を重ねてきました。現在、施設間の連携による宗教文化・精神文化を育む取り組みとして、「社寺会堂塾」と「崖東夜話（がいとうやわ）」を開催しています。今年度は、コロナ禍で滞っていた社会活動等が再開される中でメンバーも多忙となり、これまでに比べて研究会の開催数は減りましたが、改めて社会との関わりから生まれる視点も多く得られたように思います。来年度は、こうした新たな視点から見いだされる宗教文化・精神文化のあり方を実践に繋いでいく方法を探っていきたいと考えています。

※寛永寺、アッサラームファンデーション、湯島天満宮、神田明神、湯島聖堂、ニコライ堂

社寺会堂塾

4月14日（木）にセミクローズドな参加形式のフォーラム、その後5月5日（木）に公開シンポジウムを開催しました。六施設の関係者がそれぞれの特徴を紹介し、異なる分野の専門家が加わって普遍的な学びの場について意見交換を行いました。

吉見座長による趣旨文：

2018年7月～2020年10月までの約2年間にわたる本研究会社寺会堂塾第一期は『江戸東京の精神文化』の出版という成果を上げて終了した。そして第二期を開始するに先立ち、社寺会堂「塾」の意義を改めて問い直したい。なぜなら、「大学」と「塾」の間には、日本近代の知の根幹にかかわる断裂が存在するからである。慶應義塾も、松下村塾も、松下政経塾も、「大学」ではなく「塾」であろうとした。そこには、寺子屋や受験塾の系譜を超えた「塾＝ユニバーシティ」の契機が内包されている。「大学＝ユニバーシティ」の等式に疑問符を付し、「塾」を深い共同の哲学の場として捉え直すと、その先で古代ギリシャから仏教やキリスト教、イスラム教を含め、様々な宗教的学びの場の広大な風景が浮上する。この議論をまず深めることで、第二期塾の方向性を明らかにしたい。

【フォーラム】

『社寺会堂塾の可能性：これからの学びの場を考える』

日時：2022年4月14日（木）

会場：神田明神文化交流館

- ・問題提起「塾論！」吉見俊哉（東京大学（当時））
- ・報告「各施設における学びの場の実践と考え方」
対中秀行（ニコライ堂） 平正路（湯島聖堂）
鳥居繁（神田明神） 宮部亮侑（寛永寺）
- ・意見交換
中島隆博（東京大学）：司会

【シンポジウム】

『学びとは何か－我々は何をどのように学んできたか、そしてこれから？』

日時：2022年5月5日（木）

会場：御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター

- ・基調報告「湯島神田上野－学びの場としての意義とユニバーシティの捉え直し」
吉見俊哉（東京大学（当時））
- ・パネルディスカッション
齋藤希史（東京大学）：司会
ターリク ファタヤーニ（アッサラームファンデーション）
宮部亮侑（寛永寺）
横山泰子（法政大学）

崖東夜話 第三夜

「崖東夜話 第三夜」を11月9日（水）に開催しました（<https://gaitoyawa.jp>）。今回の全体テーマであった『食と礼食と祈り』は、戦争の勃発や宗教に対する議論の浮上など、近年国内外で相次いだ衝撃的な事件について、研究会メンバーが宗教文化・精神文化の観点からの議論を重ねる中で考え出されたテーマです。今回は、前回と前々回のテーマにした人々の心に訴える「音」に対して、身を慰める「食」を取り上げました。宗教文化・精神文化の中心



フォーラムの様子



シンポジウムの様子



崖東夜話第三夜の様子



にある「いのち」をつなぐ行為そのものであり、人々の日常でもある食べる行為が、どのように私たちの精神性・宗教性と繋がっているのかを考え、体験する機会になれば、と企画したものです。第一部のパネルディスカッション、第二部の六施設による講話と実演、第三部の夕食会からなる三部構成です。第三部の夕食会では、ノーガホテル上野東京にご協力いただき、精進料理とイスラム教ハラルフードを取り入れたメニューを考案し、ホテル内のBISTRO NOHGA に提供いただきました。

【崖東夜話 第三夜】

テーマ：『食と礼 食と祈り』

日時：2022年11月9日（水）午後3時～9時

第一部 パネルディスカッション「食を通じて祈りを考える」

会場：神田明神 文化交流館

登壇者：太下義之（同志社大学 / 文化政策）、押見匡純（湯島天満宮 / 神道）、対中秀行（ニコライ堂 / 東方正教）、田中有紀（東京大学 / 中国思想史）、鳥居繁（神田明神 / 神道）、モハメッド ナズィール（アッサラームファンデーション / イスラム教）、宮部亮侑（寛永寺 / 仏教）、吉見俊哉（東京大学（当時） / 社会学）

第二部 六施設における講話・実演等

会場 / テーマ / 登壇者：寛永寺「食と礼 食と祈り」宮部亮侑、アッサラームファンデーション「食と礼 食と祈り」ターリク ファアタヤーニ、湯島天満宮「日本伝統の稲作と儀礼の関係」押見匡純・渡辺直、神田明神「食前食後感謝、お酒と雅楽」春日貴仁・高島瑞暉・安藤和貴、湯島聖堂「五行思想と食 - 食と五味・食と季節・食と健康」谷中信一、ニコライ堂「正教会の祈りと食」対中秀行

第三部 夕食会

会場：ノーガホテル上野東京 Bistro NOHGA

活動記録

研究会

2022年7月20日（オンライン）

2022年8月29日（オンライン）

2023年2月21日（オンライン）

フォーラム『社教会堂塾の可能性：これからの学びの場を考える』

2022年4月14日（神田明神 文化交流館）

シンポジウム『学びとは何か - 我々は何をどのように学んできたか、そしてこれから？』

2022年5月5日（御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター）

地図ファブ・社教会堂ジョイント企画

『地図ファブが未来の地図を描く まちは生きている 2045』

2022年4月8日 六施設への聞き取り（ニコライ堂）

2022年5月5日 報告会（御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター）

崖東夜話 第三夜

2022年11月9日（六施設）

イスラム教「イフタール」の体験参加

2022年4月の日没後（アッサラームファンデーション）

メンバー 五十音順・敬称略

稲葉 あや香

宇野 求

押見 匡純

影山 輝國

金井 康子

国広 ジョージ

高 佳音

齋藤 希史

清水 祥彦

対中 秀行

平 正路

張 競

鳥居 繁

中島 隆博

中村 雄祐

モハメッド ナズィール

サーラさをり ナズィール

広田 直行

藤井 恵介

宮部 亮侑

山崎 蘭加

横山 泰子

吉見 俊哉

國學院大学助手

建築家・東京理科大学嘱託教授

湯島天満宮権宮司

湯島聖堂斯文会理事・実践女子大学

名誉教授

東京文化資源会議事務局：PM

国士舘大学教授

東京理科大学講師

東京大学教授

神田明神宮司

東京復活大聖堂教会主任司祭

湯島聖堂 斯文会顧問

明治大学教授

神田明神権禰宜

東京大学教授

東京大学教授

アッサラームファンデーション

代表理事

アッサラームファンデーション

役員

日本大学教授

東京大学名誉教授

東叡山寛永寺執事

華道家

法政大学教授

國學院大学教授：座長

活動概要

かつて文京区・本郷には、下宿屋の流れを汲んだ旅館街、そして銭湯、学生街を形成していた様々な商店など、いろんな形の「文化」が培われてきていました。

しかし、現在の本郷の街を見てみると、そうした文化資源と呼べるものはどんどん姿を消しています。そんな中、2015 年の銭湯「菊水湯」の営業終了を契機として、文京建築会コース・株式会社松下産業・東京大学・跡見学園女子大学・文京区・地域住民などの本郷にゆかりがあるメンバーが集まり、「本郷のキオクの未来」が立ち上がりました。

現在も、東京文化資源会議の協力のもと、本郷の魅力発信につながる文化資源の保存・記録・活用を目指し、活動をしています。

①富士見湯 解体前調査・物品引き取り

文京区白山で営業を続けていた銭湯・富士見湯。2020 年から休業が続いていましたが、2022 年初夏から解体が始まるということで、2022 年 4 月に実測・撮影・3D 記録等の調査をするとともに、貴重な物品部材の引き取りを行いました。

②ひじりばし博覧会:『本郷のキオクの未来 2022』シンポジウム

ひじりばし博覧会では、7 年間にわたる活動を振り返りながら、東京大学中島直人准教授などのプロジェクトメンバーを中心に、ラウンドテーブル形式で今後の展望を探るシンポジウムを開催しました。

③ひじりばし博覧会:『本郷のキオクの未来 2022』展

ひじりばし博覧会のエントランスでは、7 年間の記録の中で引き取った物品や記録資料、図面などの展示を行い、文京区本郷にあった様々な文化資源とともに、活動のあらましをご紹介します。

④魚よし・みのる荘 解体前調査

文京区本郷の菊坂沿いにあった魚屋さん「魚よし」と、その裏にあった下宿「みのる荘」の建て替えに伴い、解体される建物の実測・撮影等の調査を行いました。菊坂沿いに流れる「東大下水」という水路の遺構が確認できました。

2022 年度の活動記録

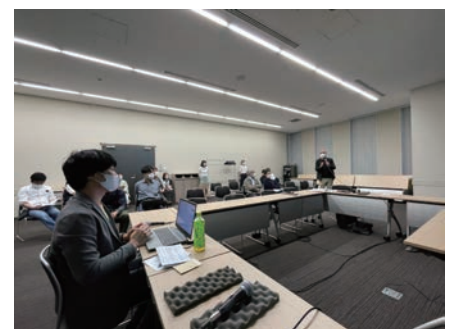
2022/4/1	第 53 回ミーティング@ zoom
2022/4/4-18	富士見湯解体前調査・物品引き取り
2022/4/13	東大都市デザイン研究室 プロジェクト報告会 @ zoom
2022/5/5	ひじりばし博覧会@ソラシティ
2022/6/28	第 54 回ミーティング@ zoom
2022/8/3	第 55 回ミーティング@ zoom
2022/9/29	第 56 回ミーティング@ zoom
2022/12/17-20	「文京喫茶」展 @ 文京シビックセンター（文京建築会コース企画）
2023/2/13	第 57 回ミーティング@ zoom
2023/2/18	菊坂・あさひ菓子店 ご訪問
2023/3/11-12	菊坂・魚よし+みのるの荘 解体前調査
2023/3/20	第 58 回ミーティング@鳳明館森川別館

本郷のキオクの未来 PT 事務局

栗生はるか（座長）

細見直史（PM）

三文字昌也（PM）



富士見湯 解体前調査

ひじりばし博覧会 2022 の様子

活動概要

スポーツ文化資源プロジェクトチームでは、「Playfulness for All」を理念として、既成の枠組みを超えて、新しい”遊び”の場を文化資源区に生み出すことを目指しています。2022年度は、発足以来続けてきた日常的な”遊び”の空間を地域に埋め込むことを目標とした活動を実施しました。

①ひじりばし博覧会：第1部「ラジオ体操からひろがる美味しい朝ごはん」

2022年5月5日（6時～9時）に、ひじりばし博覧会の第1部企画として「ラジオ体操からひろがる美味しい朝ごはん」を実施しました。参加者は10名でした。

朝のほんの10分、近所のオープンスペースに人々が集い一緒に身体を動かす、そんな誰もがきっと一度は参加したことがあるラジオ体操会。本企画は、神田明神でのラジオ体操会参加にはじまり、街中を歩いて、さまざまな公共空間でラジオ体操をして、体操後にはノーガホテル秋葉原で美味しい朝ごはんをみんなで食べるという内容でした。朝6時30分からスタートして5箇所（1. 神田明神 2. 昌平橋付近駐車場 3. 連雀エリア五差路 4. 和泉橋防災船着場 5. ノーガホテル秋葉原で朝食 6. ソラシティ軍艦山）でラジオ体操を実施しました。

②ひじりばし博覧会：第2部「根津神社のラジオ体操実践について報告、スポーツ文化資源PT活動報告と議論」

ひじりばし博覧会の第2部では、ラジオ体操をテーマとして、専門家による研究報告とPTメンバーによる第1部振り返り、参加者同士の議論を実施しました。参加者は8名でした。

本企画では、スポーツ文化資源PTのプロジェクトマネージャー逢坂裕紀子による挨拶のあと、社会学研究者である宮地俊介氏と中野航綺氏から「根津神社の実践について」という表題で根津神社におけるラジオ体操会の実践について、ご報告いただきました。続いて、当PTメンバーである宍戸遊美氏より「第1部ラジオ体操編の振り返り」を報告いただき、ラジオ体操を切り口に都市空間において、特定グループによる占有ではなく見知らぬ者同士が自由にアクセスし、ゆるやかにつながることでもたらされる相互作用について参加者同士で議論しました。司会是新雅史PT座長が担当しました。

また、受付横では2021年度にGoTo商店街事業として当チームと上野2丁目仲町通り商店街で製作した、上野公園から池之端を紹介する動画「池之端仲町ウォーク&プレイ」2本を上映しました。

③ウォーキングフットボールの活用

歩いておこなうサッカーであるウォーキングフットボールは、サッカー未経験者や、競技スポーツに苦手意識がある方、なんらかの障害がある方、誰でも楽しんでプレイできるようにルールが工夫されています。当チームでは、2022年度からウォーキングフットボールの活用を活動内容に据えて、地域内での展開可能性について検討しています。まずは日本サッカー協会で開催されているウォーキングフットボールイベントへの参加等を通じて競技への理解を深め、今後は地域内での活動においてウォーキングフットボールを活用していく予定です。



活動記録 (開催日 / 場所 / 内容)

- 2022年4月17日 / オンライン / プロジェクトチーム定例会 : ひじりばし博覧会企画相談
- 2022年5月5日 / ひじりばし博覧会 / 第1部 : ラジオ体操からひろがる美味しい朝ごはん
- 2022年5月5日 / ひじりばし博覧会 / 第2部 : 根津神社のラジオ体操実践について、スポーツ文化資源 PT 活動報告と議論
- 2022年6月26日 / オンライン / プロジェクトチーム定例会 : ひじりばし博覧会振り返り
- 2022年10月13日 / オンライン / プロジェクトチーム定例会 : 今後の活動方針の検討
- 2022年10月28日 / 新大久保 / プロジェクトチーム集会 : 今後の活動方針の検討
- 2022年12月6日 / オンライン / プロジェクトチーム定例会 : 今後の活動方針の検討
- 2023年2月28日 / JFA / ウォーキング・フットボール体験会【中止】
- 2023年3月7日 / オンライン / プロジェクトチーム定例会 : 2023年度ひじりばし博覧会の企画検討

- 鈴木直文 (一橋大学大学院社会学研究科)
- 高橋圭 (株式会社フクフクプラス)
- 高橋義雄 (筑波大学人間総合科学学術院人間総合科学研究群 群衆スポーツウエルネス学学位プログラム)
- 堂免隆浩 (一橋大学大学院社会学研究科)
- 福田哲郎 (公益財団法人日本サッカー協会)
- 森田暁 (東京地域史研究)
- 柳与志夫 (東京文化資源会議事務局長)

スポーツ文化資源 PT メンバー

- 新雅史 (流通科学大学商学部)
- 逢坂裕紀子 (国際大学 GLOCOM)
- 角谷幹夫 (V3 Kadoya)
- 川田幸生 (NPO 法人スマイルクラブ)
- 近藤純子
- 佐々木一成 (一般社団法人プラスハンディキャップ)
- 澤井和彦 (明治大学商学部)
- 穴戸遊美



2022 年度の活動について

2022 年度のリノベーションまちづくり制度研究会（リノベ研）は、ひじりばし博覧会でトークセッションを実施した以外は、あまり十分な活動が展開できずに過ごすこととなってしまいました。今後、改めて活動方針等を整理するとともに、都区部の歴史文化まちづくり地区の緩やかな連携組織である「東京歴史文化まちづくり連携」との協調関係も築きながら、リノベ研としての活動に取り組んでいきたいと考えています。

活動概要（2022 年 4 月～ 2023 年 3 月）

2022 年 5 月 5 日 ひじりばし博覧会にて『歴史文化まちづくりと都市計画：谷中地区から考える』と題したトークセッションを実施。大方潤一郎氏（東京大学名誉教授・明治大学特任教授）・下間久美子氏（國學院大學教授・元文化庁）・佐藤伸朗氏（東京都公園協会理事長・元東京都）の3名をゲストに、リノベ研の椎原晶子氏の谷中での実践に関する基調報告を受けて、都市計画や文化政策の観点から多彩な意見交換を展開。

2022 年 10 月 8 日 日本都市計画家協会主催の「全国まちづくり会議 2022 in 東京・すみだ」で催された東京歴史文化まちづくり連携によるラウンドテーブル『東京の歴史文化まちづくりを語り合う』にリノベ研メンバーも参加。各地区の活動紹介の後、意見交換。

リノベ研メンバー

《委員》

田村誠邦（明治大学／アークブレイン）【座長】
小泉秀樹（東京大学）【副座長】
飯塚洋史（quod）
佐々木晶二（土地総合研究所・元国交省）
椎原晶子（國學院大學／たいとう歴史都市研究会）
鈴木俊治（芝浦工業大学／ハーツ環境デザイン）
山本玲子（全国町並み保存連盟）
小野道生（都市計画設計研究所）【PM】

《オブザーバー》

中山靖史（UR 都市機構）
柳与志夫（東京大学・東京文化資源会議事務局長）
[順不同・敬称略]

《ひじりばし博覧会でトークセッション『歴史文化まちづくりと都市計画：谷中地区から考える』を実施》



《東京歴史文化まちづくり連携によるラウンドテーブル『東京の歴史文化まちづくりを語り合う』に参加》



2022年度の活動について

これまで、ポストコロナにおける都市の再生に寄与し、21世紀の東京の居心地よく賑わいのある公共街路空間で、市民が主体的かつ能動的に活動を展開でき、安全安心に多様な人々の交流を行うことができる社会の実現を目指してきた本構想は、2021年度より、スローモビリティの導入を主軸とした計画から、街路空間活用の視点も強化し、ウォーカブルな街づくり、地域活性化施策に寄与する都市モデルの構想へプロジェクトミッションをアップデートしてきた。

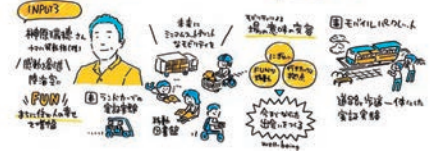
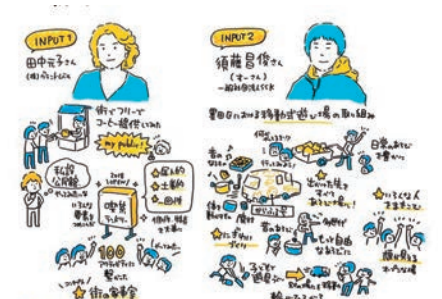
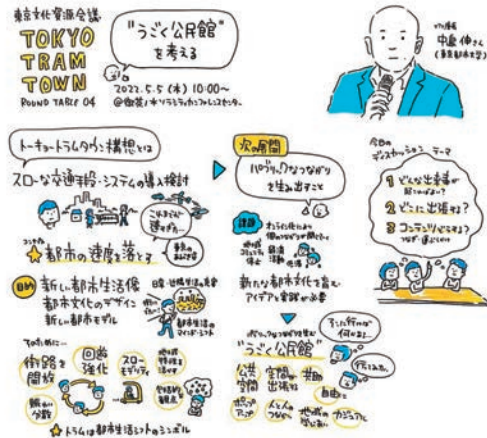
活動報告

1. 2022年5月5日 ひじりばし博覧会 第4回ラウンドテーブル「公開アイデア会議：“動く公民館”を考える」

「都市の速度を落とす」ことを通じて、「街路をスローに歩行者に開放すること」から「パブリックなつながり」を生み出すことをテーマに、新たな都市文化を育むアイデアとその実践として、「動く公民館」を提案、関係者、有識者と集まりアイデア会議を実施した。

■プログラム・登壇者

- 1) オープニング趣旨説明 「“うごく公民館”で考えたいこと」
- 2) インプットトーク 3名のゲストからのパネルトーク
田中元子 (株式会社グランドレベル) ※ TTT メンバー
須藤昌俊 (一般社団法人 SSK)
榑原瑞穂 (ヤマハ発動機株式会社)
- 3) 公開アイデア会議 「“うごく公民館”を考えよう」
田中元子 (株式会社グランドレベル) ※ TTT メンバー
須藤昌俊 (一般社団法人 SSK)
榑原瑞穂 (ヤマハ発動機株式会社)
矢部直治 (湯島天神下・酒場シンスケ4代目) ※ TTT メンバー
印出井一美 (千代田区)
中島伸 (東京都市大学) ※ TTT メンバー座長



パブリックなつながりを生む、 うごく公民館

を公共空間に展開できれば



- ・公共空間（街路空間や公開空地など）に仮設的にポップアップで展開
- ・その場で新しい人と人とのつながりを生み出す
- ・そこに行けば何かあるという期待が人々を能動にする
- ・新しいアイデアやインスピレーションが共感と行動を生み出す
- ・地域の『共助』や『学び合い』を回復する場の創造
- ・ここでの『公民館』とは公共施設としての公民館ではなく、機能や役割として、私と公との境目が重なりあった場をイメージしています。

うごく公民館とは？—誰もが自由につかえる空間（停留スペース）

- 動くことの意味は？—箱物ではなくクイックに始められる
- カジュアルに集まれる場所
- 空間が地域コミュニティに拡張する



アイデアセッションお題

- ①どんな出来事が起これば良い？（能動性を引き出す仕掛けがあれば良い？）
- ②文化資源区のごどこに出張できると良いか？
- ③コンテンツをつなぎ・運ぶ仕掛け（例：モビリティ）はどんなものか？

2. 路上実験イベントなんだかんだ - なんだかんだと、かんだはあたらしい。 -

「動く公民館」のコンセプトから、神田地域で TTT メンバーの声かけから新しい社会実験を実施。街路空間や公開空地といった公共的空間にポップアップ型のパブリックなつながりづくりの実践。

■開催概要

会期：2023年3月31日（金）11:00～19:00 4月1日（土）11:00～18:00

会場：神田ポートビル・神田ポートビル前道路東京都千代田区神田錦町3丁目9

神田スクエア・五十通り他東京都千代田区神田錦町2丁目2-1

主催：神田プレイスメイキング実行委員会

HP：<https://nandakanda.jp/>

・実行委員長

中島伸（東京都市大学都市生活学部）

・幹事

小川町三丁目南部町会、神田錦町二丁目町会、千代田区商店街連合会、錦町三丁目町会、錦町三丁目第一町会

・事務局

渡部裕樹（事務局長、株式会社日建設計総合研究所）、田紳華（株式会社日建設計総合研究所）

・実行委員

住友商事株式会社、株式会社日建設計総合研究所、安田不動産株式会社、株式会社ゆかい、ヤマハ発動機株式会社、バカンス株式会社、4FRAMES

・クリエイティブディレクター

池田晶紀（株式会社ゆかい）

・アートディレクション

広岡ジョーキ

・ロゴデザイン

大日本タイポ組合

・アートワーク

渡辺明日香

・ネーミング

糸井重里（株式会社ほぼ日）

・協力

共立女子大学、東京都市大学、神田古書店連盟、株式会社共同製作社、五十稲荷神社、千代田区立障害者福祉センターえみふる、サウナセンター、株式会社サウナラボ、渋谷 SAUNAS、スカイスパ横浜、株式会社精興社、株式会社竹尾、タナカカツキ、田中啓介、Nikken Wood Lab、ブックハウスカフェ、星野諭、株式会社ほぼ日、よしまるシン

・後援

千代田区、東京文化資源会議



なんだかんだの様子

グリーンスローモビリティが2カ所のエリアをつなぎ運行

プロジェクト概要

浅草・銀座・新宿・渋谷……東京には、各時代を象徴するまちがありました。戦後、電気街として復興を遂げた秋葉原は、90年代後半からオタク文化の勃興と共にまちの特異性に注目が集まるようになります。00年代以降は時代を象徴する街として日本のみならず世界中から人々を引き寄せようになりました。10年代以降は、大規模な再開発事業が完成し、インバウンド観光客を見据えて複数のホテルが進出してくるなど秋葉原の空間に新しい変化がみられました。また、オタク文化に関連しても、新たなライブエンターテインメントであるe-Sportsに関連する施設が増えたりしています。しかし、まちについてのイメージは、依然として00年代に成立したものを打破できておらず、空間の変化に伴った新たなビジョンも提示されていない印象を受けます。こうした変化の中にあるにも関わらず、まちとして将来を見据えた新たなビジョンが提示できていない状況に対する危機感を持ち、それでも秋葉原が持つポテンシャルを信じて「広域秋葉原作戦会議」プロジェクトは発足しました。本プロジェクトでは、秋葉原の「辻」的性質に注目します。江戸時代からの歴史に目を向けると、秋葉原は周囲との深い関係性の中に生まれたまちでした。ヒト、モノ、コト（情報）を通じて周囲の文化が集まってくる交差点、すなわち「辻」として機能しているまちが秋葉原なのです。そこで本プロジェクトでは、地理的にも意味的にも狭義の秋葉原に止まらず、秋葉原と周囲のまちを1つの広域エリア「GreaterAkiba（グレートアキバ）／広域秋葉原」として捉え、エリア全体の歴史と現状を踏まえながら、まちの進化と将来像を検討することにしました。秋葉原にある多種多様な文化資源の把握と、それらを生かした新たなまちの未来像の提示を行っていきます。

座長 庄司昌彦（武蔵大学教授）

プロジェクトマネージャー 菊地映輝（国際大学GLOCOM研究員・講師）井上奈智（上田女子短期大学講師）

2022年度の主たる活動

広域秋葉原作戦会議プロジェクトでは、2022年度は、前々年度、前年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染防止に留意しつつ活動をしました。定例会議は主としてオンラインで行い、感染対策を徹底した上でハイブリッド形式およびリアルでのイベントも開催しました。

【2022年度の主な活動（定例会議は除く）】

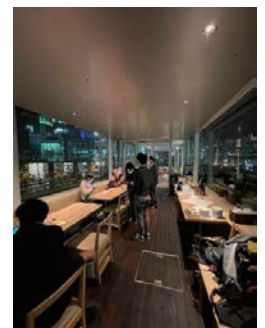
- ・2022年5月「アーツで秋葉原の新たな可能性を提示する～アーツ&アキバ運動の構想を語る～」(ひじりばし博覧会)
- ・2022年8月 アキバクレージージャーニー
- ・2022年12月 忘年会



アキバクレージージャーニー



ひじりばし博覧会



忘年会

- ・2023年2月 ミニプロジェクト管理開始（プロジェクト管理手法の変更）

「アーツで秋葉原の新たな可能性を提示する～アーツ&アキバ運動の構想を語る～」(ひじりばし博覧会)

5月5日、ひじりばし博覧会のプログラムのひとつとして開催しました。登壇者も聴講者も、リアルおよびオンラインの両方が入り混じるハイブリッド形式で行いました。Vtuberも登壇しました。第1部「アーツ&アキバ運動とは」、第2部「アーツにおける「アキバ」の意味とは」と題し、あわせて3時間近く議論を交わしました。その中でアキバの美の特徴として、「用の美に対して無用の美」という指摘がなされました。また、「アキバの街の未来感」というのは、ブレッドランナー的なものではなく、ダイバーシティ&イクオリティ的なものではないか」という提起がなされました。アーカイブのURLは次のとおり。

<https://www.youtube.com/watch?v=BfHfveWpBo8>

アキバクレージージャーニー

真夏の8月6日に、ディープ過ぎるアキバツアー「アキバクレージージャーニー」というテーマで、プロジェクトメンバー有志による巡検を実施しました。11時にJR秋葉原駅電気街口改札前集合し、ビル群を回ったあと、ランチは何人かに分かれてカレー屋さんへ。恐怖の自販機コーナー、水辺、神田明神を散策し、DUB GALLERY AKIHABARAで展示を見て17時ごろに解散しました。アキバツアーはそのたびに新たな発見があります。

忘年会

12月21日、新型コロナウイルス流行がいまだおさまりを見せないなかで、感染対策に留意しつつ、マーチエキュート神田万世橋店のレストランプラチナフィッシュ/白金魚でプロジェクトメンバーによる忘年会を行いました。会場の料理・飲み物はもちろん、旧万世橋駅から眺める電車の行き交う様子も素晴らしいものでした。

ミニプロジェクト管理開始（プロジェクト管理手法の変更）

2月17日の定例会議にて、様々なプロジェクトを同時に進めていくために、プロジェクトメンバーがやりたいことを「ミニプロジェクト」として整理し、個々に管理することとしました。

活動概要および今年度の活動

ほとんど活用されていない夜間の上野公園の利活用を中心に、その周辺地域と密接に連携しながら、文化資源区が保有する歴史性と多様性を持った文化資源の発掘・保全・活用を展開していくため、2018年10月に上野ナイトパーク構想会議を立ち上げ、2019年2月に「上野ナイトパーク構想」を発表。その後、東京文化資源会議及び賛同する賛助会員社から成る企画委員会において構想の具体化を検討し、モデル事業と位置づけた「上野ナイトパーク 2020 spring」を文化庁の助成金を得て上野公園で2020年3月に開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により延期となりました。しかし、企画・準備過程を通じて東京都庁、上野公園管理事務所、上野公園内の美術館・博物館等各施設との協力関係も構築することができました。

引き続き構想に基づく具体的対応を検討・実施するとともに、構想を本格的に実現するため、東京文化資源会議をはじめ上記の趣旨に賛同する関連諸団体（企業、各種団体等）が集まり、上野公園 PMO の設置に向けての推進力となりうる連携組織「上野ナイトパークコンソーシアム（UNPC）」を立ち上げました。UNPC の事業として、文化庁による「令和2年度博物館・文化財等におけるナイトタイム充実支援事業」を採択し、公園や文化施設と連携した夜間活用事業に取り組みました。本事業も、新型コロナウイルスの伴う緊急事態宣言の発出により、当初想定していた内容から一部変更し、東京国立博物館の夜間開館を活用した付加価値の高いナイトミュージアム事業や、10代の若者向けのクリエイタースクールと連携し、国立科学博物館の研究者らと、作品や展示の魅力などをトークするポッドキャスト番組の開設による情報発信事業などを行いました。

これらを踏まえ、2021年度では具体的な活動指針およびアクションプランの策定をしました。アクションプラン策定にあたって、コロナ禍を通じた変化や今後の上野公園の可能性、上野周辺地域一帯のこれからのあり方について、文化施設や上野公園関連の諸団体、地元商店街へ個別インタビューを行うとともに、インターネット調査を通じ、一般の方々に対するアンケート調査をご報告いたしました。こうした調査やアクションプランを踏まえ、2022年度では、これらのアクションプランのご報告や、情報発信事業として立ち上げたポッドキャスト番組の運営などに注力しながら、UNPC に賛同する参画企業らとともに、上野という地域資源を活用した具体的な取り組みについての議論やアイデアを重ねてきました。

コロナ禍後の上野公園の課題と可能性 ～ 利用調査で見えてきたもの（@ひじりばし博覧会 2022）

2021年度に実施した、UNPC のアクションプラン策定の根拠と

なるデータ・情報収集を目的に、インターネットによるアンケート調査（一般向け）と、上野公園および上野地域に関係する文化施設や行政機関、地元団体等の関係各所へのインタビュー調査結果を踏まえ、今後の上野関連文化資源の活用をめざした活動に結びつけていくためのシンポジウムを開催しました。パネルディスカッションでは、本調査を踏まえ、今後の上野公園のあり方やその活用の可能性について幅広く議論する場となりました。

<構成>

1. 趣旨説明：

柳与志夫（東京文化資源会議事務局長、UNPC 代表）

2. 報告：上野公園利用調査とアクションプラン案

江口晋太郎（東京文化資源会議事務局次長）

3. パネルディスカッション

パネリスト（敬称略、50音順）

志村泰典（丹青社、UNPC）、竹之内勝典（東京国立博物館）、

玉置泰紀（KADOKAWA、UNPC）、津川恵理（建築家）、

古田恵美（JR 東日本）、吉見俊哉（東京大学）：司会

12月27日第二回「10代、ミュージアムの夜ラジオ」 第2回 東京国立博物館と上野まち歩き

10代の若者向けのクリエイタースクール「GAKU」と連携し、上野の文化施設の魅力や上野という街の面白さを伝えるポッドキャスト企画。第二回として、3名の10代とともに、東京国立博物館（以下、トーハク）を鑑賞し、その後、上野のまちをそぞろ歩きしながら、上野という街が、10代の若者たちからどのように感じるのかを、自由に語ってもらうトーク収録を行いました。

収録日：2022年10月13日（木）

ロケーション：東京国立博物館、松坂屋上野店、アーツ&スナック運動

ゲスト：kaito、yoko、yuu

聞き手：佐藤海

制作：GAKU

写真：鈴木渉

収録したポッドキャストは (<https://podcasters.spotify.com/pod/show/museum-no-yoru-radio/episodes/10-VOL-2-e1somp6/a-a93n5i2>) から聞くことができます。

メンバー（50音順、敬称略）

東京文化資源会議（事務局）

合同会社 quod

株式会社大丸松坂屋百貨店

株式会社丹青社

株式会社トーキョーベータ

YKK 株式会社

朝日信用金庫

株式会社 JTB

株式会社竹中工務店

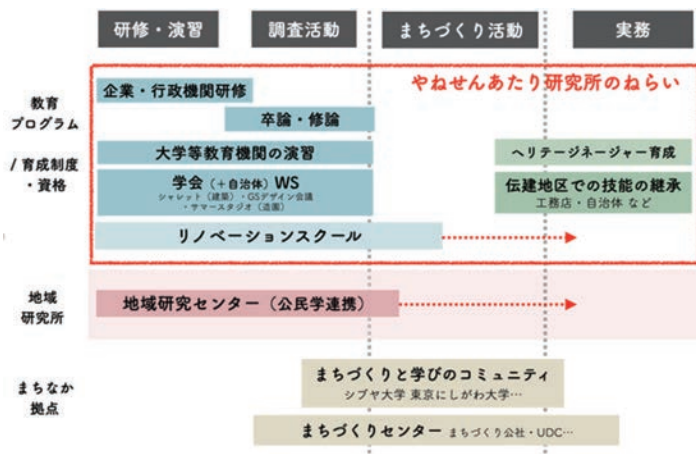
株式会社電通

野村不動産株式会社



活動概要

やねせんあたりとは、谷根千（谷中、上野桜木、根津、千駄木、池之端）と下谷、根岸、弥生、下谷、日暮里などの周辺、生活に結びついた地域の文化資源の積み重ねが感じられる地域です。文化資源会議がその活動目的の1つとして掲げる、「文化資源を活かし地域に貢献できる専門家、実務家の地域での育成」が持続的に行われるには、その基盤として、地域の中に研究、活動を蓄積し、情報を共有するための拠点が必要となります。やねせんあたり研究所は、そのプラットフォームとしての「地域立」の独立した研究機関を目指し活動するものです。「研究所」では、大学や研究室、企業を超え、研究や活動のアプローチや成果を共有すること、文化資源を支える実務、日常生活と研究・教育活動とが交わり、新しい価値を生み出す場を作り出すことを目標としています。



まちなかでの研究、人材育成活動と本プロジェクトの対象

活動の方針

地域での実践・研究などの活動、学生の卒業研究や修士研究を発表・共有する研究会などの機会を設定しながら、以下の3点に取り組んでいます。

- 1) 研究・活動の公式な成果とともに、地域との関わり方とを合わせて地域に蓄積すること
- 2) 建築、都市、芸術、文化、福祉、教育、医療など、様々な分野の視点からまちに取り組む方のネットワークを構築していくこと
- 3) 地域の中に地域研究とその還元を行う拠点を設けていくこと。

やねせんあたり研究会 vol.3 の実施

やねせんあたり研究会 vol.3 は、2023年5月5日にお茶の水ソラシティーで開催されたひじりばし博覧会の中で、オンラインとのハイブリットの研究会を実施した。研究会では、最近1年の出来事や活動を中心にそれぞれの地域の状況を共有するとともに、地域で生活・活動する人の中で意識の共有・連携と、地域を軸とした研究・教育の展開とアーカイブのあり方について議論しました。

やねせんあたり研究会 vol.3 プログラム

1. 主旨説明 片桐 由希子（金沢工業大）
2. 活動報告

『谷中あたり』

- ・都市計画道路見直しと地区計画導入のその後 椎原晶子（たいとう歴史都市研究会 / 國學院大学）
- ・地区計画制度 青木公隆（東京大学 / 建築家）
- ・建物活用 神谷南（東京大学大学院）

『根岸あたり』

- ・坂本小学校の取り壊し 小林一雄（入谷の記憶を未来に繋ぐ会）

『本郷あたり』

- ・鳳明館の調査と記録 森谷薫平（法政大学大学院修了生）+ 栗生はるか（文京建築会ユース）

『白山あたり』

- ・富士見湯の調査と記録 栗生はるか・三文字昌也（本郷のキオクの未来）

『根津あたり』

- ・藍染大通り 50 周年 道路の使い方・地域ルールづくり 内海皓平（OpenA）・本山真一郎（千田建築設計）坂本小学校の取り壊し

『やねせんあたり』

- ・まちまち眼鏡店 坪井 美寿咲・柳スルキ（まちまち眼鏡店）
- ・歴史都市の記憶のアーカイブ 豊島祐樹（石川高専）

3. 意見交換・今後の活動への展望

1-3の発表者+栗生はるか+三文字昌也



やねせんあたり研究会 vol.3 の様子

やねせんあたり研究所 活動メンバー（五十音順・敬称略）

- 片桐 由希子（金沢工業大学）
- 栗生 はるか（文京建築会ユース）
- 三文字昌也（東京大学大学院 / 本郷のキオクの未来）
- 椎原 晶子（国学院大学 / たいとう歴史都市研究会）

やねせんあたり研究会 vol.3 アーカイブ:

https://youtube.com/live/WdfY-YRIS_c

Facebook:

<https://www.facebook.com/yatarilab>

活動概要

神田エリアでは昨今の都心回帰の流れで大小様々な開発圧力が高まる中で、地域にとって公共性や納得性の高い都市開発やまちづくりが求められてきた。千代田区は警察通り沿道整備協議会を立ち上げ、共通する一つのイメージの神田ではなく、小さな魅力的で個性的なまちまち、かいわいを捉える必要性を認識してきた。開発事業者はそれぞれ再開発協議組合を中心に主に町会と議論を重ね合意を伴う開発を進めている。

このような背景のもと、東京文化資源会議・神田まちづくり懇談会では、大学関係者が中心となり地元の納得感のある開発を進めもらうため、かいわいの特徴を捉える指標の開発を進めている。

「神田かいわい指標」ワークショップ

神田まちづくり懇談会では、ひじりばし博覧会 2022 において、「神田かいわい指標」ワークショップを実施し、「神田かいわい指標」について、①指標の考え方、②指標の使い方、③実際の指標による地区の評価、を提示するとともに、神田警察通り沿道整備協議会による神田地域のまちづくりビジョンとかいわい指標の連携の方法を議論した。

ワークショップからのフィードバック

ワークショップでは、神田に暮らす方、働く方、関心のある方から非常に有用なご意見をいただくことができた。

追加していくべき指標として次のような項目があがった。

- ①神田で人はどこに住んでいるか（例：ペントハウスの位置）
- ②町内会の活動の把握

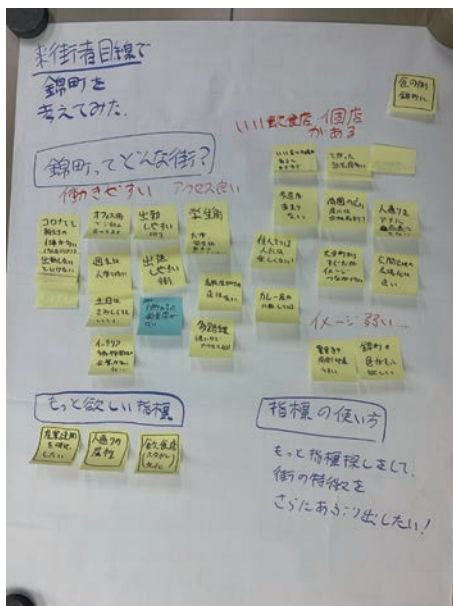
- ③町会の担い手として、こどもや事業者にも着目
- ④通りを歩いている人の属性
- ⑤飲食店の詳細（スタイルや文化に関連して）：魅力的な尖ったお店は多い。チェーン店でない。レーティングサイトとは異なる方法で見える化。
- ⑥店舗の多様さ：エリアごとの特徴のある店舗の多様さ

また、指標の使い方としては次のようなご意見をいただいている。

- ①常にアップデートされる指標を目指す
 - ・継続的なモニタリングを実施。指標に行政、制度上の位置付けを与えることはできないか。
- ②インセンティブを持てるための道具
 - ・エリア特性や地域に求められることをかいわい指標で提示。即していたら建設条件を緩和。
 - ・大規模再開発と個別更新とのリンクで、Win-Winを目指す。
 - ・公共貢献メニューへのリンク（大規模開発）
 - ・参考：公開空地の使い方、公開空地のつなぎ方ルール、など
- ③場所の意味、空間の議論へつなげる
 - ・お互いの頭の中にあることが噛み合うように。まずは違いを認識する

今後の展開

千代田区がエリマネ組織「エリアプラットフォーム」を組織することを検討していることを受け、神田まちづくり懇談会の立ち位置を再検討していきたい。また、かいわい指標の充実および使い方については、町会やディベロッパー（懇談会メンバー）とのより密に交流できる場を用意して検討を進めていく予定である。



上野連携構想推進委員会（新東京ビジョン策定委員会）

上野周辺で当会議が手がける幾つかのプロジェクトの連絡・連携を強化し、より効果的な対応をするために立ち上げた委員会であったが、当会議にとって上野に関わる構想はその中核的な役割を果たすと考え、東京文化資源区構想に変わる当会議第2期の構想となる「新東京ビジョン（仮称）」を策定するための委員会として位置付けた。

オリンピック後・コロナ禍後の新しい東京の方向性やそこで果たすべき当会議の役割等について、議論を重ねた。また、成果物は、ビジョンを公表するだけでなく、その社会的普及をめざすため、一般書籍化することとなった。

具体的には、「今の東京の何が問題か、どこを変えたらいいのか」の問題提起、これまで当会議が取り組んできた様々なプロジェクトの成果と問題点を振り返ることによる、東京の様々な分野での可能性、それらを踏まえた文化資源を活用した東京全体の新しいビジョンの提示を考えている。2024年春の公表をめざす。

1 「ジモト」としての文化資源会議

新しい文化主導型まちづくりのモデルを示す

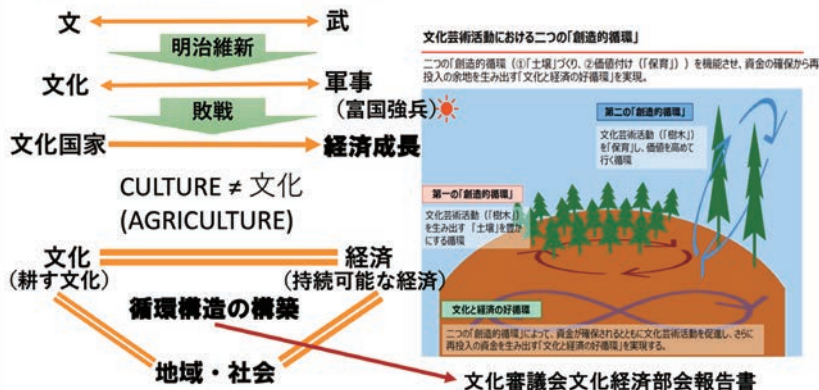


文化資源区の海外モデル

- 21世紀のまちづくり:
- ①クルマはもういらぬ(脱自動車)
 - ②デジタルはフル活用(モバイル、AI)
 - ③旨味と余韻を愉しむ街(都市のすきま)



「文化」の根本から持続可能な東京を創る



活動概要

東京文化資源会議の各PTによる活動報告や文化資源区における発掘・保全・利活用を推進していくため、文化資源に関わる様々な取り組みを展示やワークショップなどの体験コンテンツや、セミナー、シンポジウム、そして楽しいお食事コーナーなど、幅広い催しを展開する「ひじりばし博覧会」。

2022年は、5月5日にソラシティカンファレンスセンターを全体で活用し、終日かけて様々な催しを開催しました。2020年7月から開催したひじりばし博覧会は、2021年は新型コロナ感染拡大に伴い中止となったため、2年ぶりの開催となりました。感染状況も落ち着いたことから、会場には多くの参加者や関係者が集まり、一日かけて様々な対話や議論、展示、体験等が行われたイベントとなりました。

博覧会は、終日かけて合計14のプロジェクトの企画が展開されました。フォーラムのみならず、展示や体験コンテンツ、飲食企画も盛り沢山となりました。今回、企業協力である野村不動産ホテルズのノーガホテル合同企画として、特製ピザロールやカヌレ、特製お弁当の販売や、珈琲を通して生産地支援を行う緑の木によるアップサイクル型のカップを使用した珈琲の提供などを通じて、参加者同士の交流や意見交換を活発に行われ、イベント空間全体における人と人をつなぐ役割としての飲食という文化も体現できました。

ソラシティを全面的に活用し、さらにリアル開催にて登壇者や参加者同士の交流や直接の意見交換ができる場が実現できました。コロナ禍でオンライン開催も日常的となりましたが、五感すべてを活用して、考え、触れて、行動するということを、空間全体を通して文化資源にまつわる様々な学びや理解が得られました。

日時：2022年5月5日（木・祝）10時～20時

場所：御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター（東京都千代田区神田駿河台4-6）

主催：東京文化資源会議

共催：sola city Conference Center

後援：千代田区

協力：デジタルハリウッド大学/大学院、お茶ナビゲート、Akiba.TV株式会社、野村不動産ホテルズ株式会社、緑の木

プログラムとその概要

■ ラジオ体操からひろがる美味しい朝ごはん

ラジオ体操のように公共空間を気軽に間借りして人々が集い、身体を動かす実践について考えるトークイベントを開催。

■ 公開アイデア会議："動く公民館"を考える

■ やねせんあたり研究会 vol.03

やねせんあたりのエリアでは、魅力的な居場所空間や活動が生まれる一方で、都市計画道路の廃止と地区計画の導入などを受けた開発の動きなど、まちの変化の速度が加速化している。やねせんあたり研究会 vol.3として、ここ1年の出来事や活動について状況を共有するとともに、地域で生活・活動する人の中で意識の共有・連携と、地域を軸とした研究・教育の展開とアーカイブのあり方について議論する。

■ 最新メタバースで遊ぶ（提供：デジタルハリウッド大学）

■ 歴史文化まちづくりと都市計画：谷中地区から考える

谷中地区の地区計画を題材として、歴史文化まちづくりと地区計画の関係（効果・課題）や今後の展望等について意見を交わすト





クイメント。

■『本郷のキオクの未来 2022』シンポジウム

文京区本郷には、下宿屋の流れを汲んだ旅館街、そして数多くの銭湯、学生街を形成していた様々な商店など、いろんな形の都市の「文化」が培われてきた。しかし、現在の本郷の街を見てみると、そうした文化資源と呼べるものがどんどん姿を消している。2015年の銭湯「菊水湯」の営業終了を契機として、文京建築会コース・株式会社松下産業・東京大学・跡見学園女子大学・行政関係者・地域住民などの本郷にゆかりがあるメンバーが集まり、「本郷のキオクの未来」プロジェクトが立ち上がった。本シンポジウムでは7年間にわたる活動を振り返りながら今後の展望を探る。

■「神田かいわい指標」ワークショップ

神田まちづくり懇談会で検討してきた「神田かいわい指標」について、①指標の考え方、②指標の使い方、③実際の指標による地区の評価、を提示するとともに、神田警察通り沿道整備協議会による神田地域のまちづくりビジョンとかいわい指標の連携の方法を議論する。

■社教会堂シンポジウム「学びとは何か — 我々は何をどのように学んできたか、そしてこれから？」

「学びの場」が幾重にも重なる湯島・神田・上野の成り立ちを振り返り、この地域に点在するお寺、神社、教会、専門学校、大学など、学術・宗教施設が担ってきた「学びの場」としての意義や魅力について、宗教施設の方々による実践のお話を交えながら、じっくりと考える。

■アーツで秋葉原の新たな可能性を提示する～アーツ&アキバ運動の構想を語る～

本シンポジウムでは、「アーツ&アキバ運動」とはどのようなものなのか、そして、なぜ「アキバ」を舞台にアーツを展開するのか議論する。

■地図ファブ・社教会堂ジョイント企画：「地図ファブが未来の地図を描く まちは生きている 2045」

地図ファブと社教会堂とがジョイントし「まちは生きている 2045」と題した2045年の文化資源区について考えるプランを作成。12の場所を選定し道の一つの軸として2045年の姿を考えるための試み。大判印刷した地図およびデザイン画を前に文化資源区の未来について議論したい。

■コロナ禍後の上野公園の課題と可能性 ～ 利用調査で見えてきたもの

計画策定の根拠となるデータ・情報収集を目的に、インターネットによるアンケート調査（一般向け）と、上野公園および上野地域に関係する文化施設や行政機関、地元団体等の関係各所へのインタビュー調査を行った。その調査結果を踏まえ、今後の上野関連文化資源の活用をめざした活動に結びつけていくためのシンポジウム。

■未来の東京を〈東〉に再生する：新しい地域デザイン活動事例から見えてくるもの

これまで取り組んできた東京都心部の多様で豊富な文化資源を活用したまちづくり活動の実績を踏まえて、2014年に発表した「東京文化資源区構想」に続く、新しい東京の都市設計の在り方を検討している。今回のシンポジウムでは、都心各所で取り組まれてきた同種の活動を参考に、「未来の東京ビジョン」の輪郭を明確にしていきたい。

■麴町照覧（デジタルハリウッド大学展示）

■『本郷のキオクの未来 2021』展

■『ノーガホテル特製ピザロールとカヌレ』『庭のホテル特製お弁当』（飲食提供）

■緑の木のオリジナルブレンド（飲食提供）

東京オリンピック文化プログラム推進に関わる 4 者協議会規約

(平成 28 年 5 月 9 日確定)

(名称)

第 1 条 本協議会は、東京文化資源区文化プログラム推進協議会と称する。

(目的)

第 2 条 本協議会は、2020 年東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムの実施に合わせて、東京都千代田区、文京区及び台東区内に存在する豊富で多様な文化資源を、当該各区のみならず、当該各区の住民及び国内外からの来訪者に対して連携して活用することにより、各区域内における文化振興、地域活性化、教育普及、観光促進等を図るため、その具体的な施策について協議及び推進することを目的とする。

(協議会の構成)

第 3 条 本協議会は、前条の目的に賛同する次の各号の掲げる 4 者 (以下単に「4 者」という。)をもって構成する。

(1) 千代田区

(2) 文京区

(3) 台東区

(4) 東京文化資源会議

(運営方針)

第 4 条 本協議会の運営方針は、4 者の協議によって決定する。

(事務所)

第 5 条 本協議会は、主たる事務所を東京都千代田区神田錦町二丁目 1 番地に置く。

(会議)

第 6 条 本協議会の会議は、4 者の合意のもと、必要と認めた場合に開催する。

2 会議の議事は、4 者の協議をもって決する。

(事業等に係る経費)

第 7 条 4 者の協議に基づく文化プログラム個別プロジェクトの企画及び実施に係る経費の支出については、4 者で別途協議する。

(規約の改定)

第 8 条 本協議規約の改定は、4 者の合意をもって行う。

(事務局)

第 9 条 本協議会の事務局は東京文化資源会議内に置く。

(その他)

第 10 条 本協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この規約は、平成 28 年 6 月 1 日より施行する。

東京文化資源会議 2022 年度収支報告（一般会計）

東京文化資源会議一般会計収支報告（2023年3月31日現在）

収入の部

費目	内訳	予算	収入	差額
前年度繰越金		5,100,000	5,111,676	11,676
会費	一般賛助会員会費	7,500,000	3,000,000	▲500,000
	特別賛助会員会費		4,000,000	
	本会員会費	210,000	240,000	30,000
利子			54	54
総計		12,810,000	12,351,730	▲458,270

支出の部

費目	内訳	予算	支出	差額
事務局運営費	事務所賃料（光熱水道費を含む）	360,000	362,640	▲2,640
	備品等購入費	50,000	990	49,010
	スタッフ手当（事務局長、次長、スタッフ、臨時アルバイト）	3,500,000	2,524,770	975,230
	事務作業委託費	800,000	378,180	421,820
	交通費、電話料金、消耗品費等運営経費	400,000	142,688	257,312
	総会開催経費	400,000	114,760	285,240
	小計	5,510,000	3,524,028	1,985,972
イベント開催費	ひじりばし博覧会2022運営経費	1,500,000	999,135	500,865
	産東夜話実施経費	1,200,000	127,573	1,072,427
	その他シンポジウム等開催の講師謝金、運営経費、会場費等	700,000	586	699,414
	小計	3,400,000	1,127,294	2,272,706
プロジェクトチーム等運営費	プロジェクトチーム等運営費	600,000	33,000	567,000
	会場費	200,000	34,200	165,800
	小計	800,000	67,200	732,800
広報普及費	既存出版物増印費	200,000	0	200,000
	パンフレット・チラシ等編集・作成費	500,000	40,220	459,780
	ニューズレター制作費（4号分）	800,000	496,980	303,020
	ホームページ運用費	100,000	12,078	87,922
	広報業務支援委託費（ニューズレター編集等）	550,000	550,440	▲440
	広報媒体費（PRタイムズ他）	700,000	124,970	575,030
小計	2,850,000	1,224,688	1,625,312	
その他諸経費（会計監査謝金等）		100,000	46,911	53,089
予備費		150,000		124,014
総計		12,810,000	5,990,121	6,819,879

収支差額

2022年度繰越金額			6,361,609	
------------	--	--	-----------	--

東京文化資源会議 2022 年度収支報告（特別会計）

東京文化資源会議特別会計 1 収支報告（2023年3月31日現在）

収入の部

費目	内訳	収入
前年度繰越金		76,000
崖東夜話参加費		13,132
総計		89,132

支出の部

費目	内訳	支出
なし		0
総計		0

収支差額

2022年度繰越金額		89,132
------------	--	---------------

東京文化資源会議特別会計2収支報告（2023年3月31日時点）

収入の部

費目	内訳	収入
前年度繰越金		1,250,996
出資配当金		199
利息		12
総計		1,251,207

支出の部

費目	内訳	支出
IB法人手数料	1,100×12ヶ月	13,200
総計		13,200

収支差額

2022年度繰越金額		1,238,007
------------	--	------------------

東京文化資源会議 2022 年度会計監査報告


東京文化資源会議 2022 年度会計監査報告

2022 年度（2022 年 4 月～2023 年 3 月）の東京文化資源会議の事業執行及び財産の状況を帳簿その他の証拠資料の提示を受け監査した結果、いずれも適正に処理され妥当であることを認めます。

2023 年 4 月 21 日

東京文化資源会議

監事

北岡 夕子 

東京文化資源会議 2023 年度事業計画（案）

1. 「新東京ビジョン」の作成・公表

「東京文化資源区構想」策定から7年が立ち、東京オリンピック文化プログラムの一環と位置づけた同構想も、次のステージへの発展が必要となっている。そこで、これまでの当会議関連プロジェクトの成果を踏まえつつ、オリンピック後の新しい東京の在り方を提示するための「新東京ビジョン（仮称）」を策定し、公表・出版する。検討体制としては、上野の全体プランを検討するために設置した上野連携構想推進委員会（委員長：吉見幹事長）が中心となって素案を作成する。関連するプロジェクトは以下のとおり。

①上野ナイトパーク構想

2020年7月に設立した上野ナイトパークコンソーシアム（UNPC）を中心に、上野公園内ミュージアム等関連施設及び周辺施設との連携事業を順次実施する。

②上野スクエア構想

PTとしては廃止したが、地元商店会等関係者と連携した活動を順次実施する。

③湯島神田上野社寺会堂研究会（座長：吉見俊哉國學院大学教授）

共同イベント「崖東夜話」第四夜を本年10月頃実施する。

④トーキョートラムタウン構想（PT 座長：中島伸東京都市大学准教授）

2020年7月にまとめた構想をもとに、社会実験実施をめざして関係者との協議を進める。東京都への事業提案も引き続き行う。

⑤広域秋葉原作戦会議（PT 座長：庄司昌彦武蔵大学教授）

秋葉原の新しいまちづくりを基幹コンセプトとして、「アーツ&アキバ運動」等 PT 参加者の特性を生かした活動を展開していく。

2. まちづくりに関する提案

「神田かわい指標」の作成・公表に向けて集中的に取り組んでいる神田まちづくり懇談会を中心に、以下の各プロジェクトチームにおける活動を推進するとともに、必要な連携を図り、まちづくり制度改革のための提案を行なっていく。

- ・神田まちづくり懇談会（座長：小林正美明治大学教授）
- ・広域秋葉原作戦会議（座長：庄司昌彦武蔵大学教授）
- ・本郷のキオクの未来（座長：栗生はるか文京建築会ユース代表）
- ・やねせんあたり研究所（主宰：片桐由希子金沢工業大学講師）

3. 各プロジェクトチーム等の運営と関連イベントの開催

①スポーツ文化資源 PT（座長：新雅史流通科学大学講師）

スポーツの文化資源化を図るため、「スポーツを遊べる」場を当地域内で増やしていく。

②神保町関連PTの立ち上げ（予定）

③賛助会員向け「新東京ビジョン連続フォーラム」の開催（2023年6月～、月1回）

新東京ビジョンに関連する各種トピックを取り上げ、当会議幹事と賛助会員間のコミュニケーションを活発化し、新しい協働事業の可能性を探る。

4. 広報普及活動

- (1) 『T-Cha』の発行（年2回）
- (2) 「ひじりばし博覧会 2023」の開催（5月）
- (3) 社寺会堂共同イベント「崖東夜話・第4話」の実施（10月）

5. 東京文化資源区文化プログラム推進協議会の運営

6. その他当会議の目標を達成するために必要な事業

東京文化資源会議 2023 年度収支計画（案）

○ 収入

前年度繰越金	630 万円	
本会員会費	21 万円	内訳：3,000 円× 70（団体・個人）
賛助会員会費	700 万円	内訳：50 万円× 8 社+ 30 万円× 10 社
		計、1,351 万円

○ 支出

事務局運営費	561 万円	
事務所賃料（光熱水道費を含む）	3 万円× 12 か月＝	36 万円
備品等購入費		5 万円
スタッフ手当（事務局長、次長、スタッフ、臨時アルバイト）		350 万円
事務作業委託費		80 万円
交通費、電話料金、消耗品費等運営経費		40 万円
総会開催経費（年報編集刊行費等）		50 万円
イベント開催費	210 万円	
ひじりばし博覧会 2023 運営経費		100 万円
崖東夜話実施経費		50 万円
その他シンポジウム等 3 回開催の講師謝金、運営経費、会場費等		60 万円
プロジェクトチーム等運営費	80 万円	
プロジェクトチーム等運営費	10 万円× 6 グループ＝	60 万円
会場費		20 万円
広報普及費	465 万円	
既存出版物増刷費		10 万円
書籍編集・刊行費		250 万円
パンフレット・チラシ等編集・作成費		50 万円
ニューズレター制作費（2号分）		40 万円
ホームページ運用費		10 万円
広報業務支援委託（ニューズレター編集等）		55 万円
広報媒体費（PR タイムズ他）		50 万円
その他諸経費（会計監査謝金等）	10 万円	
予備費	25 万円	
		計、1,351 万円

東京文化資源会議 役員名簿

2023年4月1日現在

会長	吉見俊哉（國學院大学教授）		
顧問	青木保（前国立新美術館館長）	青柳正規（多摩美術大学理事長）	
	伊藤滋（東京大学名誉教授）	相賀昌宏（小学館会長）	
	小倉純二（日本サッカー協会最高顧問）	金澤正剛（国際基督教大学名誉教授）	
	高階秀爾（大原美術館館長）	御厨貴（東京大学名誉教授）	
幹事	新雅史（流通科学大学講師）	太下義之（同志社大学教授）	
	小野道生（㈱都市計画設計研究所室長）	宇野求（東京理科大学嘱託教授）	
	片桐由希子（金沢工業大学准教授）	栗生はるか（(一社)せんとうとまち代表理事・文京建築会ユース代表）	
	小泉秀樹（東京大学教授）	小林正美（明治大学教授）	
	沢辺均（ポット出版社社長）	椎原晶子（國學院大学教授）	
	島裕（帝京大学教授）	庄司昌彦（武蔵大学教授）	
	数藤雅彦（弁護士）	玉置泰紀（角川アスキー総合研究所エリア LOVE ウォーカー総編集長）	
	田村誠邦（㈱アークブレイン代表取締役）	中島伸（東京都市大学准教授）	
	中島直人（東京大学准教授）	中村政人（東京藝術大学教授・副学長）	
	中村雄祐（東京大学教授）	濱口博行（東アジアサッカー連盟 CFO・広島経済大学教授）	
	福島幸宏（慶応義塾大学准教授）	三船康道（NPO 歴史的建造物とまちづくりの会代表）	
	山本玲子（特定非営利活動法人全国町並み保存連盟事務局長）		
	吉本光宏（㈱ニッセイ基礎研究所研究理事）		
	監事	北岡タマ子（人間文化研究機構人間文化研究創発センター特任准教授）	
	事務局長	柳与志夫（東京大学特任教授）	

東京文化資源会議 賛助会員（一般・運営・名誉）リスト

(50音順) / 2023年4月24日現在

<一般賛助会員>

1. 朝日信用金庫
2. NTT都市開発(株)
3. 講談社
4. (株)JTB
5. (株)ゼンリン
6. (株)丹青社
7. (株)東京ドーム
8. 凸版印刷(株)
9. (株)日立製作所
10. (株)松下産業
11. (株)ムラヤマ

<運営賛助会員>

1. 住友商事(株)
2. (株)大丸松坂屋百貨店
3. (株)竹中工務店
4. 日鉄興和不動産(株)
5. 野村不動産(株)
6. 三井不動産(株)
7. 三菱地所(株)
8. 安田不動産(株)

<名誉賛助会員>

- (株)池之端藤井

東京文化資源会議 2023 年度 年報

発行日 2023 年 6 月 23 日

発行者 東京文化資源会議 (編集: 真鍋陸太郎)

〒110-0005 台東区上野 2-11-1 藤井ビル 3 階

TEL: 03-5244-5450 WEB: <https://tcha.jp/>

